

記録に乏しい黒部川の支流へ

北アルプス 黒部川猫又谷

猫又谷と書いて「ネコマタダン」と読む。黒部で沢登りといえ、ガイド本に紹介されている上ノ廊下や、黒薙川支流の北ノ又谷と柳又谷が有名だと思う。少し沢登りに詳しいなら剣沢大滝を思い浮かべる人もいるかも知れない。猫又谷というと、大抵の人は毛勝三山の猫又谷が頭に浮かぶらしく、実際、お盆の計画を説明するときは、必ずと言っていいほど「毛勝三山の猫又ではない方」と一言付け加えないと話が進まなかった。

どうして猫又谷に興味を持つようになったのか、まったく覚えていない。でも、何か惹かれるものがあったのだと思う。近くに駅はあるけど降車不可能な為、入渓するのも一苦労なこの谷に、新人パーティーで入ることになった。

8月11日(木) 晴れ

序章 猫又谷入渓までの長い道のり

始発から2番目のトロッコ列車に乗車。宇奈月駅を出発すると列車は黒部川沿いをゆっくりと走る。「みなさま～」と地元、富山県出身の女優・室井滋がいきなりしゃべりだす(ちなみに昔、JR氷見線に乗った時も室井滋が忍者ハットリくんのしゃべり方でアナウンスしていた、ニンニン)。前と同じ内容、いつか変わることはあるのだろうか…と思う。

やがて入渓点でもある猫又駅(この駅は乗降ができない)を過ぎ、鐘釣駅手前の東鐘釣山トンネルを抜けた瞬間に左手を見る。川の流が途切れていた。ここに来る前に山小屋から情報を得ていたのだ。不帰谷から土砂が流れ出し、鐘釣駅の前には堰止め湖ができている。だから猫又谷に行くのは大変かもよ、そう山小屋のご主人はおっしゃった。

鐘釣駅を降りて500mほど上流にある河原の露天風呂へ下ると、目の前の川は満々と水を湛えた湖と化していた。遠目だが水が途切れるまでの距離は300mくらいか。泳ぐしか猫又谷へ行く道はないのか…。悩みながらいったん駅に戻る。途中、沢装備の男性3人組とすれ違い、目が合った。

駅前の美山温泉に階段があり、川まで下りられそうだったので吉澤くんがご主人にお願いをして敷地内に入らせていただく。泳ぐならここからだよ、と言いつつもなかなか踏ん切りがつかない。流れがあればいいけれど、流れのない湖を300m近く泳ぎきる自信はないし、水深が10m以上はあるらしい。もりじゅんは泳ぐ気満々で、ザックをビートバンみたいにして行けば?とか気楽に言ってくれる。いやだなあ。再び悩む。するとそこに先ほどすれ違った3人組がやってきて、先頭の男性に「どこの沢に入るの?」聞かれたので「猫又谷です」と答えた。彼らも猫又谷に入渓するという。すると彼は小林くんを見るなり「あれ? おたくトマじゃない?」と言い、目を丸くしている私たちを尻目にドヤドヤと階段を下りていき、やがて堰止め湖には波紋が広がった。3人組は泳ぎ

【日程】

2016年8月11日(木)
～8月13日(土)

【メンバー】

吉澤(L)、松本、小林、森山

【グレード】

4級

【地研図】

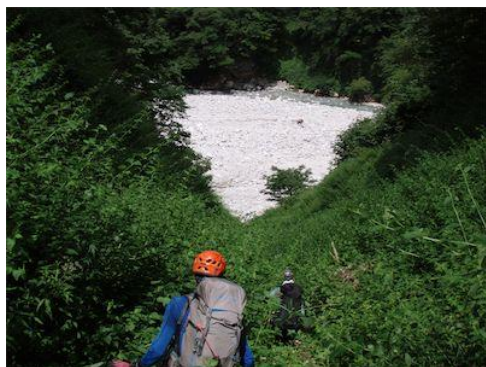
黒薙温泉、樺平

【記】吉澤、松本、小林



を選んだようだ。

その間、美山温泉のおかみさんと話をしていた吉澤くんが「西鐘釣山に道があるらしいです」と言う。線路の反対側を見るととても道などなさそうな急な斜面だったが、知る人ぞ知るルートで「山頂からはとても眺めがいいんですけど」とおかみさんはゆったりと微笑んでいる。地形図で確認すると標高差約 230m、そこから北に延びる送電線の下をたどると黒部川へ下りられるようだった。私たちの猫又谷への道はこれしかない。しかし、ようやく繋がった猫又谷への道は厳しかった。足元はガラガラで、鼻が突きそうなほどの急登に汗をしたたらせる。尾根に乗ると山頂方面には行かず、反対にある送電線の鉄塔から下降に入る。ああ、のどが乾いてくつつきそう、水、水が飲みたい…。遠くに黒部の白い河原が見えた。あそこまで行けば水が…。



支流の似合谷で水を得て生き返ったところで猫又谷へ向かう。さっきまで乗っていたトロッコ列車を河原から見上げて、手を振ったりしている自分。列車から見ていた景色に身を置いていることがなんとも不思議だった。河原には点々と先行した 3 人組のものであろう足跡があった。

猫又谷の入り口に立った。ところが、私たちと猫又谷の間には大きなコンクリートの壁が立ちはだかり、行く手を塞いでいる。もう、いやーん。猫又さんはなかなか入溪させてはくれない。壁は堰堤ではなく、上にトロッコ列車の線路が敷かれていた。この壁を抜けなければ…。よく見ると、壁の下には水の抜け穴があった。意を決し、高さ 1m もない穴を、腰をかがめてくぐる。出口は水流が強く、押し戻されそうになるが気合いで乗り越す。無事に壁抜けに成功し、やっとこさ猫又谷へ入溪できた。側壁を見上げると、ずっと上まで立っている。黒部の谷に来たのだとぐっと気持ちが引き締まる。でも今日はゴルジュ手前の河原まで。広く快適な河原で、焚き火を大きく熾し、明日からの遡行に備えたのでした。(松本記)

8月12日(金) 晴れ

本章 猫又の核心部へ

快適な幕場に別れを告げて、核心部を越えるべく出発する。

下部ゴルジュは側壁が垂直にそそり立っていて、奥に白い滝が轟々と落ちているのが見える。ゴルジュの入口に立つといつもそうだが、恐怖心に押し殺されそうになる。

さあ、一歩踏み出してゴルジュに突入。出てくる滝は釜を持つが、泳ぐほどの深さは無く、胸まで浸かって弱点に取り付く。フリーで登れる滝もあれば空身でないと越えられない滝もあり、荷揚げを駆使して着実に越えていく。

沢が東へ向きを変えると、今まで狭く暗かった溪相が一転して開けた明るい溪相になった。恐怖心はすっかり無くなり、黒部の沢にいることに幸せを感じる。

小休止を挟んでから行動を開始する。





再び両壁狭まってくると、今度は一筋縄では行かない滝が連続して現れる。ロープを出しながらきわどい側壁を越えていくと、今度は高巻き必要な滝が出現。左岸の草付きに取り付き、森山さん先行で進むとステップがあるから行けるとのこと。先行パーティーの踏み跡があるのかなと安心して進むと、ステップって、外傾した岩にちょっと段差がついているだけじゃん・・・。森山さん以下3人は恐る恐るクライムダウン。ラバーソールのフリクションが効いたので良かったが、草付きで履いたスパイクのままクライムダウンした小林さんは相当怖かったとのこと。脱ぐようにアドバイスすれば良かったですね。すみません。その後の滝は流心右側の隙間を行けそうだったので泳いで取り付こうとしたら、流れが強すぎて押し戻された。ここは一発ジャンプで流れを越える。

この滝を越えると再び沢は広くなり、落ち着いた溪相になる。暫く河原を歩くと先行パーティーのテン場を発見。真っ平なテン場は快適そうだ。

ここから先は巨岩帯となり、右へ左へ、ルートを見つけながらいくつもの岩を越えていく。

1090m 付近で出会う滝がまたしても登れず左岸高巻きになる。出だしの草付きは悪く良く滑るので注意が必要。灌木まで登りトラバースをすると先行パーティーのものと思われる残置スリングを発見。懸垂下降で川床へ戻る。

再び巨岩帯を越えていくとほどよいテン場が見つかったので、今日の行動はここで終了とした。

さて、当初予定の清水岳は遥か彼方だ。明日、支流から登山道へ詰め上がり、祖母谷温泉での温泉&ビールセットが抗えないほどの力で誘惑してきた。どうしようかほんの少し悩んだが、ザックに持って来たお酒を全て飲み干し、3日目の朝食として用意していたうどんを、夕飯後なのに酔ったついでにシメで食べたくなったので、松本さんに駄々をこねて作ってもらい、ツルんと美味しく頂いた。これで、明日は清水岳を目指そうとしても目指せない。

お腹も満たされ、気持ちよく酔いながら焚き火の横で全員ゴロ寝。あー、気持ちが良い。明日の温泉で汗を流した後のキンキンに冷えたビールに胸を躍らせながら、就寝となりました。(吉澤記)

8月13日(土) 晴れ

最終章 さようなら猫又谷!

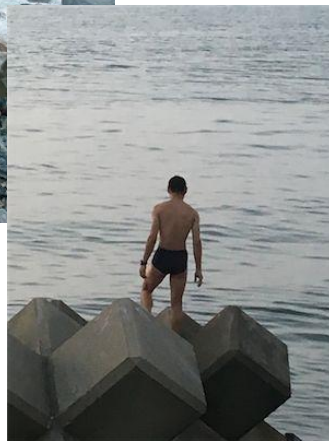
昨夜はそれ程寒くなく三日目の朝も旨い焼飯で腹満たし予定通り6時に出発した。空模様は本日も晴れ、出発後直ぐに1208m過ぎたところで二俣となるが左を進む。30分程でゴルジュ帯に入った。一つ目の滝を越えたがその次からはナメの様なスラブの様な滝でツルツルに磨かれておりホールドもなくしかもその先も連続している様なので巻くことにした。ロープを出して左岸の草付きを登り藪を漕いでトラバースして懸垂下降で沢に降りた。結局、一気に4つの滝を巻いており、ツルツルの5連瀑、ミニゴルジュを突破した。ゴルジュ突破後に直ぐに1350m枝沢出合い、昨夜の話し合いではここで不帰避難小屋へ突き上



げる枝沢を登るはずが…吉澤隊長「行ってみます？」…え？清水岳？本日のゴールは祖母谷温泉そして温泉&Beerのはず。突然の決断タイム、皆、清水岳への思いあるものの猫又谷上部はガレっていて水も枯れていて幕営地も難しい…しかも既に頭は熱い温泉と冷えたBeerモード、予定どおり枝沢へ（笑）。枝沢は岩の色も茶色に変わり幅の狭く斜度も増しどんどん高度を上げて行った。3~4mの滝を幾つか越え1590mで8m-12mの二段滝が現われ、これを右岸草付き藪をロープを出して巻いた。沢に降りたところで休憩、沢筋は日陰は寒かったが拓けたところでは日差しがむしろ暑い、まさに夏休みな感じだ。沢を詰めていき水も枯れ1830m付近で三俣となり真ん中進んで行くと沢は溝になりその溝が尾根を越え登山道へと辿り着いた。登山道から見るとまるで分かれ道のようなだった。登山道をせせと下り17:00に祖母谷温泉に到着した。テント場は小屋、露天風呂のすぐ横で平で快適、到着後すぐ冷たいビールで乾杯、最高に旨い。テントが綺麗にならんでいるところに我々はタープを張り入浴後、しこたま冷たいビール、日本酒を飲み、生姜焼きとマッシュポテトで至福の時を過ごした。翌日の行程が緩い事を良いことにテン場でありながら遅くまで盛り上がりすぎてしまいました、ごめんなさい。明日は短時間の舗装路歩きのみ、翌朝の朝風呂に思いを馳せつつ眠りについた。

【行程】

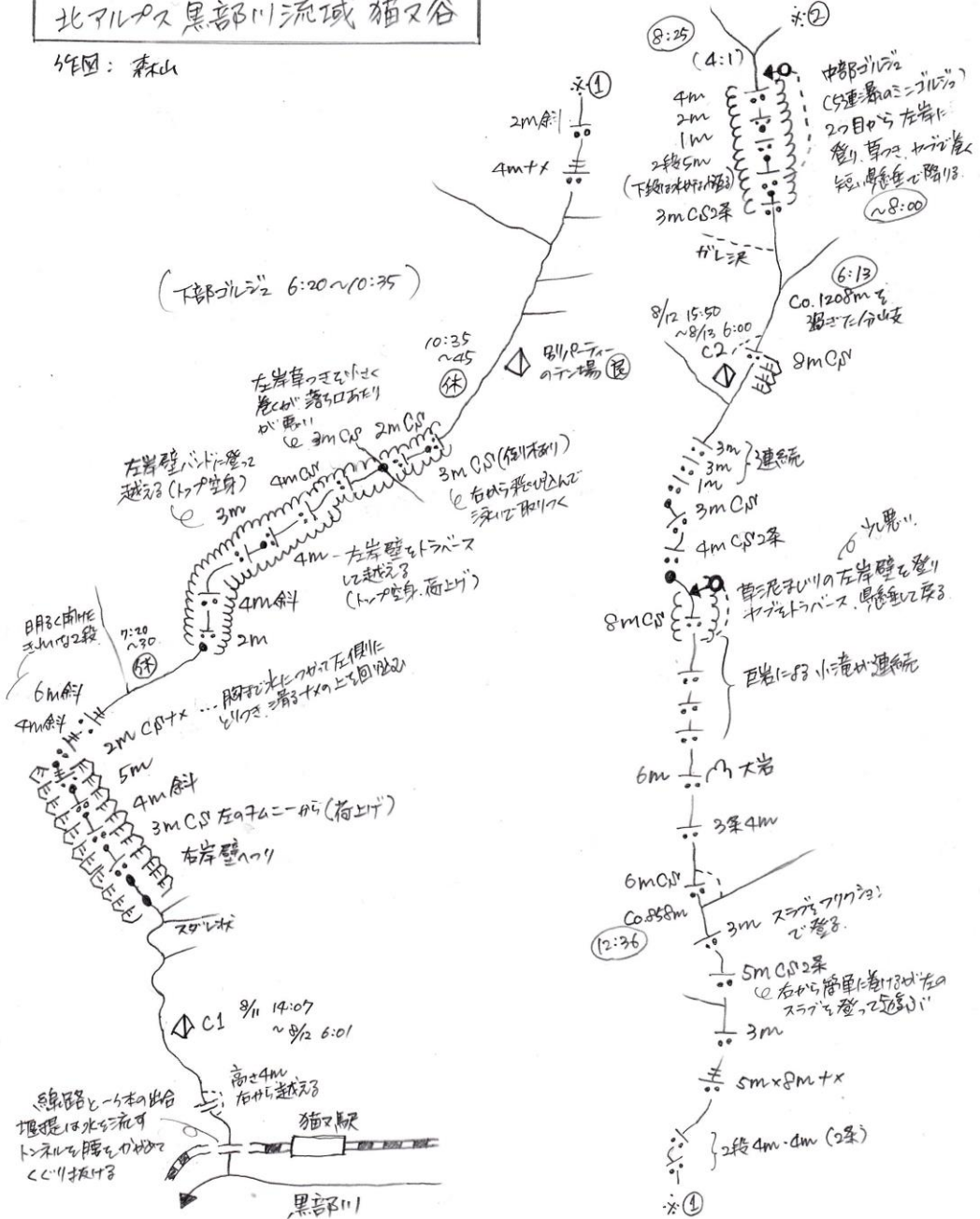
8/11 宇奈月駅 (7:57) =鐘釣駅 (8:51~10:08) ~西鐘釣山頂直下 (10:55) ~黒部川 (ヤブ下降終了) (12:22) ~似合谷出合 (12:30) ~猫又谷出合 (13:25) ~C1 (14:07)
8/12 C1 (6:01) ~下部ゴルジュ終了 (10:35) ~標高858m支沢出合 (12:36) ~C2 (15:50)
8/13 C2 (6:00) ~中部ゴルジュ巻き終了 (8:00) ~標高1350m支沢出合 (8:25) ~連瀑巻終了 (10:55) ~不帰避難小屋 (13:00~13:25) ~祖母谷温泉 (17:00) 幕営
8/14 祖母谷温泉 (8:45) ~樺平駅 (9:15~9:37) =宇奈月駅 (10:59)

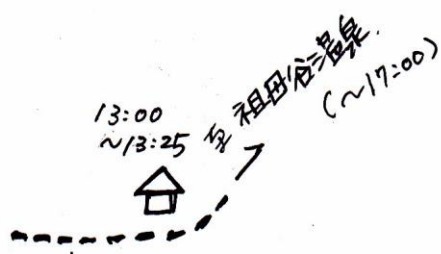


2016. 8. 11 ~ 14

北アルプス黒部川流域 猫又谷

作図: 森山





13:00
~13:25



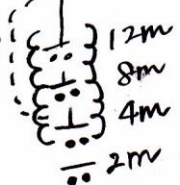
祖田/谷温泉
(〜17:00)

} Co. 1830m付近の
三ノ木付近の地形

10:55
~11:05



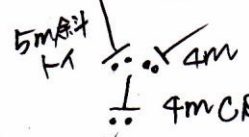
少し立っている
ブナ林の谷川
右岸壁を登り
トラバース



右から登る状
落下口
への一歩で
高度脱出

3m 2条

3m CS
(セーター(巻物))



4m
2条の1本
合流

*② ... Co. 1350m に出合
不帰遊撃隊小屋上へ
突進する枝沢

€"